第２章　益子町の概要と歴史文化遺産の現況

１．益子町の概要

１－１　立地と交通

益子町は栃木県の南東部に位置し、東は茂木町、北は市貝町、西が真岡市、南は茨城県桜川市（旧岩瀬町）と境を接する県境の町である。

関東平野の北東部に所在する当町は、栃木県と茨城県の境に南北に横たわる八溝山地の南部に位置する鶏足山塊に属する山地と丘陵が大勢を占める。町域の東寄りには標高 533.3m の雨巻山を最高峰とし、高館山、芳賀富士などがそびえる。また、町域の西部を南流する小貝川の流域には台地や低地が所在し、市街地を形成している。

交通に関しては、JR 水戸線下館駅から分岐して真岡市から当町を経て茂木町へと向う、第三セクター真岡鐵道が町の西部を南北に延び、「益子駅」「七井駅」が立地する。また、これと並行するように走る国道 294 号線は福島県会津若松市から茨城県筑西市を通り千葉県柏市へ通じる主要交通路である。他、国道 121 号、国道 123 号等により県都宇都宮市、真岡市との連絡機能を確保し、広域交流の軸となる北関東自動車道への良好なアクセスを有する。

バスは、東野バスによる益子市街地～七井市街地～東武宇都宮駅を結ぶ 1 系統の他、広域の交通手段として東京・秋葉原方面と連絡する高速バス（関東やきものライナー）が民間により運行している。町内は､小学校の統廃合に伴う学区の拡大により 3 つの小学校（益子･七井･田野）で各 2 コースのスクールバスが運行する他、デマンドタクシー（通称ひまわり号）が新たな公共交通システムとして平成 24 年（2012）10 月より運行が開始された。

また、平成 28 年（2016）10 月に道の駅ましこがオープンし、新たな交流の拠点施設として期待されている。

図 2-1　益子町位置図

0
1000
2000m
市貝町
芳賀町
茂木町
真岡市
茨城県桜川市
芳賀富士▲
高館山▲
雨巻山▲
国道123号線
国道121号線
国道294号線
真岡鐵道
七井駅
益子駅
七井中学校
七井小学校
＜七井地区＞
益子中学校
益子町役場
益子西小学校
益子小学校
＜益子地区＞
道の駅ましこ
田野中学校
田野小学校
＜田野地区＞
小宅川
大羽川
小貝川
百目鬼川
ぐみ川

図 2-2　益子町全体図

１－２　益子町の自然

（１）気象と地形

益子の地形は、形成年代順に山地・丘陵地・台地・低地に分類できる。町の東半分を占める八溝山地地域は、南部に高く 400 ～ 500 メートル北に高度を減じている。この南部が高い雨巻山等の山地に梅雨期の南方からの湿った風が遮られるため、益子町は梅雨の降水量が栃木県内で最も少ない地域となっている。

これらの山地から流れる河川は、町の西部を南流する小貝川に注いでいる。大羽川を除けばいずれも流域面積が小さな河川である。梅雨の雨量の少なさと河川の流域面積の小ささが、益子に農業灌漑用の溜池を数多く発達させたと考えられる。八溝山地の周辺に、標高 120 メートル～ 130 メートルの高さの揃った丘陵地が広がる。また、小貝川の流域、特に右岸の星の宮・塙などには、稲毛田台地に一括される平坦地が広がっている。

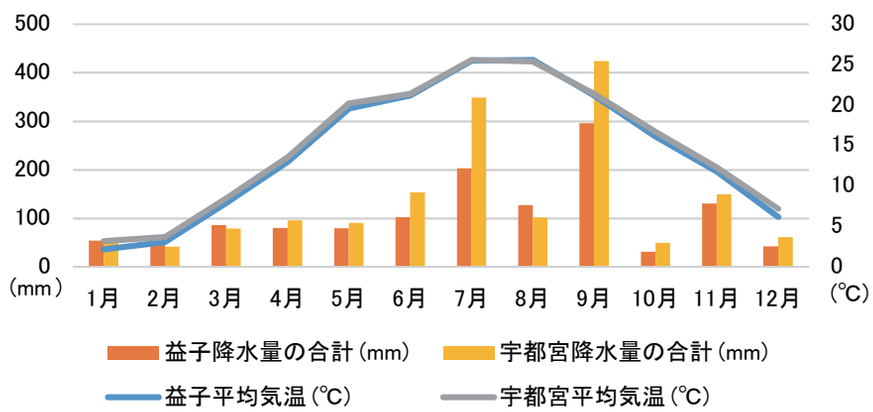

図 2-3　月別降水量と平均気温（益子と宇都宮（平成 27 年））/ 気象庁「過去の気象データ」を基に作成

（２）植生

栃木県の植生にはヤブツバキクラス域（暖温帯の植生域）からブナクラス域（冷温帯の植生域）に移行する地域が見られ、益子町を含む県南部はヤブツバキクラス域の北限に近い地域となっている。

益子町の植生は、山間部がコナラ林やアカマツ林（いずれもヤブツバキクラス域の代償植生）となっており、国有林部分を中心にスギ・ヒノキ・サワラ植林（植林地、耕作地植生）が形成されている。コナラ林やアカマツ林は、人との関わり合いの中で形成されてきた二次林であり、益子町では田んぼと共に里山を構成する代表的な植生である。また、それら二次林は益子の人々の暮らしの中で薪や落ち葉等から作る堆肥の供給場所として親しまれてきた。アカマツは発熱量が大きく、益子焼の焼成燃料として適した特性を備えている。

一方、高館山や雨巻山には自然度の高い植生が存在することが知られている。高館山付近では、西明寺境内に暖温帯の代表的な植生であるスダジイ林やアラカシ林の自然植生が残されている。一方、標高 302 mの高館山や 533 mの雨巻山の山頂部では、関東地方では、通常標高 800 m以上に見られる冷温帯の植物であるブナの個体群が存在する。高館山頂付近では部分的にブナとスダジイの混生が見られ、全国的にも非常に珍しい例となっている。

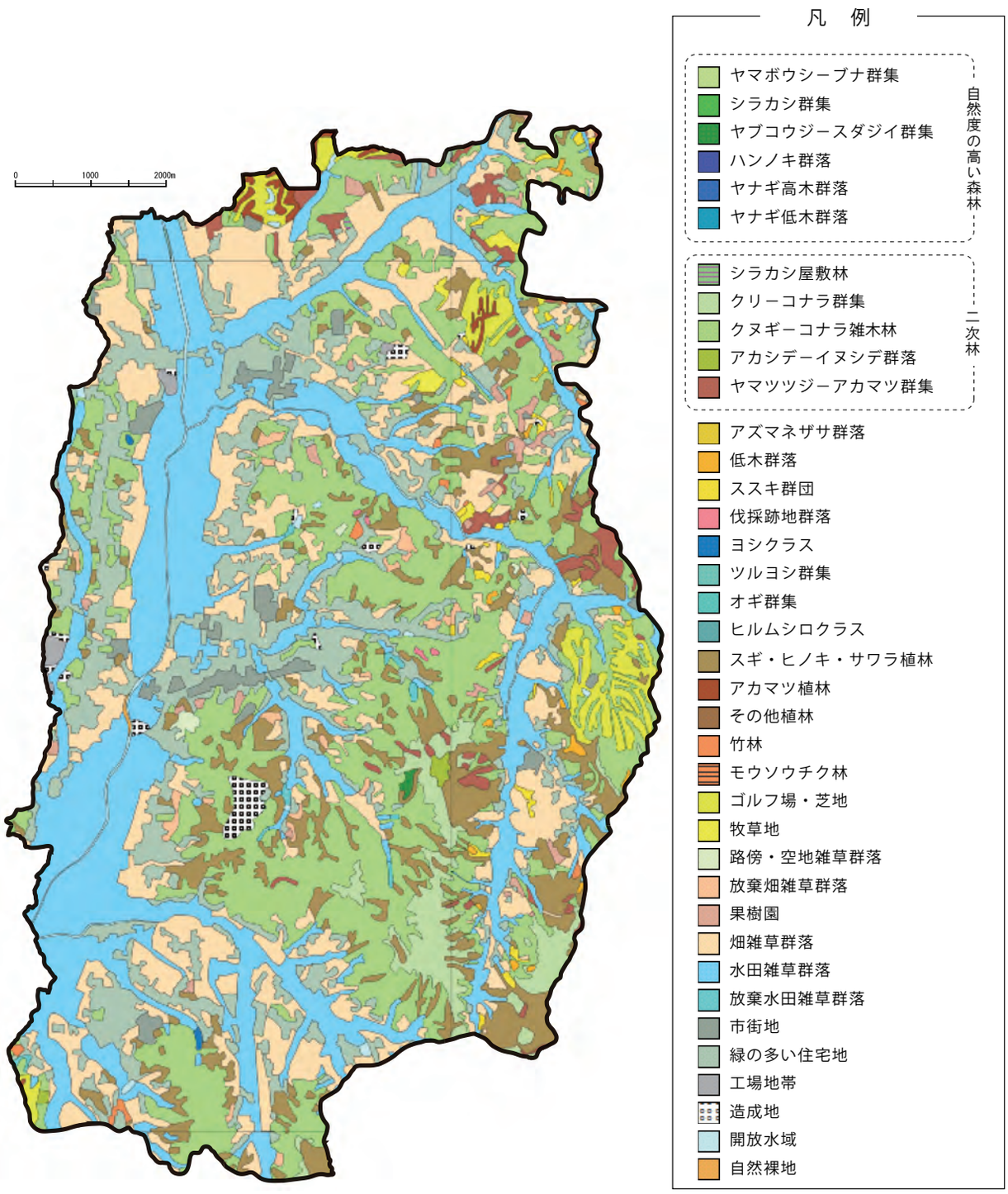

図 2-4　益子町植生図 /1/25,000 植生図 GIS データ（環境省生物多様性センター）を基に作成

（3）地質

益子町の地質は、大平地内より南の山地に砂岩、砂岩泥岩互層、泥岩、チャート等からなる古い地層が分布する。これらの地層は約 1 億 5000 万年前の中世代ジュラ期のものであることが、発掘された化石から確認されている。町北部から茂木町方面にかけて、新生代新第三紀の凝灰岩や凝灰角礫岩が中生層に不整合に分布している様子が見られる。この凝灰岩が芦沼石と呼ばれ、昭和 20 年代までは大谷石のように建材として採掘されていたが、現在では専ら益子焼の釉薬の原料として採掘されている。また、北部の丘陵地には、新生代第四紀更新世中頃の砂や粘土を含む礫層が分布している。地質学上は境林礫層と呼ばれる丘陵をつくる地層で、この礫層中の粘土が益子焼の陶土となった。新福寺の陶土採掘地では約 3 mを超える厚い粘土層が存在する。

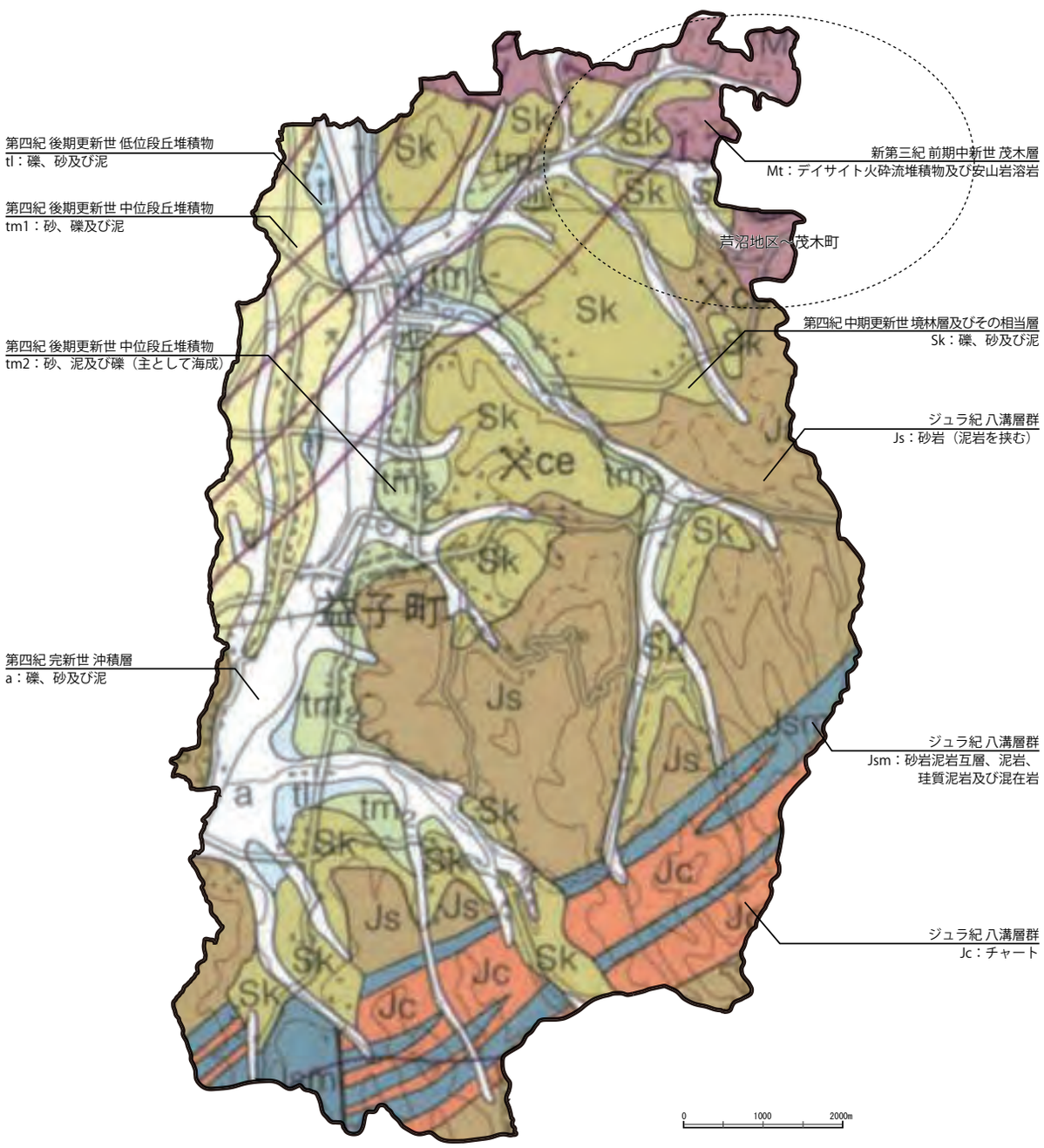

図 2-5　益子町地質図 /20 万分の 1 地質図幅「宇都宮」（地質調査総合センター）を基に作成

１－３　益子町の歴史

（１）古代

①旧石器時代～弥生時代

現在、益子町で発見されている最古の遺跡は旧石器時代の終末期に属するものである。塙遺跡や星の宮遺跡から旧石器時代の終末期に属する石器が出土している。

縄文時代には丘陵上に狩猟・採集の生活を行い血縁関係の家族が数軒集まって生活を営んでいた。平成 11 年県営広域農道線（宇都宮・笠間線と芳賀広域農道）の建設に伴い発掘調査が行われた御霊前遺跡では、竪穴住居跡 18 軒や袋状土坑が確認され数多くの縄文土器や土偶等が出土した。調査区は集落の一部であり、かなり大規模な集落であったと推測できる。山本地区にも山居台遺跡という土器片が多数発見されている大規模な遺跡が確認されている（『益子町史』には 20 数件掲載）。

稲作農耕が広まった弥生時代の遺跡は栃木県内では発掘例が少ないが、益子町では生田目地区の車堂遺跡や長堤地区の長堤遺跡から竪穴住居や弥生土器、土製紡錘車が出土しており、県内で貴重な遺跡となっている。

表 2-1　旧石器時代～弥生時代の主な遺跡

名　称		概　要
旧石器時代	塙遺跡	益子西小学校の北側丘陵上に立地。約 14000 年前の石器（尖頭器、ナイフ形石器、石錐）や石核が出土。
	星の宮遺跡	アプローズ益子周辺の丘陵上に立地。約 13000 年前の石器(削器、細石刃)や石核が出土。
縄文時代	御霊前遺跡	平成 10 年(1998)県営広域農道整備事業として発掘調査。御霊神社の南側丘陵上に立地。5000 年～ 2500 年前の集落で、竪穴住居跡 18 軒や袋状土坑が確認され数多くの縄文土器や土偶等が出土。縄文時代の大集落であったと推測される。
	山居台遺跡	旧山本小学校南側の丘陵全体に広がる遺跡。町史編纂事業に伴って昭和 59 年（1984）に丘の頂上部の発掘調査が行われ、竪穴住居、土坑が確認され、多くの縄文土器や石器が発見された。周辺から採取された土器等より、多少の中断はあったが、縄文時代全般にわたって集落が営まれていたと考えられる。
	聖ヶ丘遺跡	益子中学校の校庭を中心に広がる遺跡。昭和 36 年（1961）新校舎建設に伴う造成工事で多くの縄文土器が出土した。
弥生時代	車堂遺跡	昭和 58 年（1983）町史編纂事業に伴って発掘調査が行われ、竪穴住居 3 軒と、多くの弥生土器、土製紡錘車が出土した。
	長堤遺跡	昭和 50 年（1975）道路新設工事に伴って発掘調査。長堤地区にあり、水田面より約 3 mほど高く北西に延びる舌状の低位台地上に立地。縄文～歴史時代の重複遺跡であり、弥生時代の遺構は住居跡 3 軒と多くの土器片が出土。

②古墳時代

古墳時代には小宅古墳群や荒久台古墳群、向北原古墳群等、多くの古墳が造られた。大型方形周溝墓が見つかった向北原遺跡と、上方から埋葬した円墳、横から埋葬する小宅古墳群は継続性が想定される。浅間塚古墳（全長約 52 m）は、前方後方墳であり古墳時代初期の 4 世紀後半という古い年代であることから県指定史跡に指定されている。この他、前方後円墳や円墳が 7 世紀前半頃まで益子町各地に築造されたと考えられる。益子町史には前方後円墳 16 基、前方後方墳 1 基、円墳 175 基とあり、県内でも多い部類に入る。また、集落跡でも竪穴住居跡 6 軒が確認された田野中学校校庭内遺跡を確認している。

表 2-2　古墳時代の主な遺跡

名　称	概　要
浅間塚古墳 (県指定史跡)	県立益子芳星高校の校庭の南側に所在。全長約 52 m、前方部高さ 4 mの前方後方墳。益子町で初期に造られた古墳であると考えらえる。
入定塚古墳 (県指定史跡)	円通寺一切経塔の南西約 50 mの丘陵上にある全長約 60 mの古墳。
小宅古墳群 (県指定史跡)	亀岡八幡宮から南西にかけての丘陵上に所在。前方後円墳 6 基､円墳 29 基（内 9 基は削平）からなり、そのうち 18 基（内 1 基は削平）が県指定史跡となっている。
荒久台古墳群	前方後円墳 1 基、円墳 17 基が現存。
天王塚古墳 (町指定史跡)	荒久台古墳群の中心的な古墳。全長約 43 mの前方後円墳で、昭和 29 年（1954）から昭和 30 年（1955）にかけて行われた発掘調査で鏡や環頭大刀､馬具等多くの副葬品が出土した。
風戸塚古墳 (県指定史跡)	風戸公民館の南西約 150 mに所在する直径 38 mの円墳。
古聖古墳群	益子中学校の東側にある群集墳。前方後円墳 1 基、円墳 15 基が現存。
新田山古墳群	長堤字新田山にあり、前方後円墳 1 基、円墳 2 基からなる。このうち円墳 1 基は、芳賀地方では初めて埴輪が並べられた古墳で、5 世紀後半に造られたと考えられる。
西坪古墳群	小宅古墳群の近辺に所在。前方後円墳 1 基、円墳 3 基が現存。
向北原古墳群	小宅古墳群の近辺に所在。前方後円墳 3 基、円墳 6 基が現存。
日向古墳群	小宅古墳群の近辺に所在。円墳 7 基が現存。
向北原遺跡	七井字向北原にあり、昭和 48 年（1973）にゴルフ場造成に伴い発掘調査が行われた。竪穴住居 16 軒が確認され､使われなくなった住居跡を再利用して造られた方形周溝墓 8 基（内 1 基は 1 辺 25 m）も確認された。
田野中学校校庭内遺跡	田野中学校の校庭にあった遺跡で、昭和 35 年（1960）校庭拡張工事に伴って竪穴住居跡 6 軒が確認され、壺 3 個、皿数枚が出土した。

③奈良・平安時代

701 年の大宝律令により、中央政府は支配地域を国・郡・里の三段階の行政組織に編成した。栃木県は下野国と呼ばれ東山道に属し、9 つの郡に分けられた。益子町は芳賀郡に属した。

この時代の益子は下野国有数の須恵器の生産地であり、下野国東部や南央部に須恵器を供給していた他、瓦の生産も行われた。こうした生産力を背景に他とは異なる富や力を持った人々が暮らしたと思われる集落も出現した。昭和 50 年（1975）県立益子高等学校（現県立益子芳星高等学校）の建設に伴って発掘調査が行われた星の宮ケカチ遺跡では、役人や有力者が所有した石帯や円面硯、東大寺正倉院に納められているものと同形の佐波理（さはり）の匙が出土している。

また、現在の下野市に下野薬師寺・下野国分寺・下野国分尼寺が建立されるなど、下野国でも中央政府の命令や有力者の発願により、寺院が建立されるようになった。益子では天平 9 年（737）に紀伊国出身の豪族紀氏により、十一面観音を本尊とする芳賀山観音寺（後の西明寺）が創建され、739 年には行基によって供養が行われ、8 世紀後半には 12 坊を数えるまでになった。11 世紀になると紀氏が御城山（益子古城）に館を構え、益子の領主となり、後の益子氏となった。

田野地区の西山・本沼にある瓦窯跡から出土した須恵器片から下野薬師寺・下野国分寺・新治郡衙跡に瓦を提供していたことが判明している（～ 9 世紀頃には衰退）。尾羽寺跡からは一村山と銘記された瓦が出土し、瓦本体または工人の交流が考えられる。大羽・栗生地区では倉見沢・滝が入窯跡が発掘されている。山の麓に窯跡が多く、赤松等の燃料が豊富だったことが考えられる。

表 2-3　奈良・平安時代の主な遺跡・文化財

名　称	概　要
原窯跡群	山本地区に所在。原東窯跡、フジナ入窯跡、丸峰窯跡、篠倉窯跡からなり、8 世紀初め頃より須恵器の生産が行われたと考えられる。
本沼窯業群跡 (町指定史跡)	田野地区に所在。本沼窯跡、西山窯跡、毘沙門入窯跡、谷津入窯跡、カスガ入窯跡、古ヶ原窯跡から成り、8 世紀中頃～ 9 世紀中頃まで須恵器や瓦の生産が行われたと考えられる。瓦は下野薬師寺、下野国分寺にも提供された。
古代窯跡（栗生窯跡群） (町指定史跡)	上大羽地区に所在。脇屋窯跡、東山窯跡、滝ノ入窯跡、倉見沢窯跡から成り、8 世紀終わり頃～ 10 世紀中頃まで須恵器や瓦の生産が行われたと考えられる。
星の宮ケカチ遺跡	昭和 50 年（1975）県立益子高等学校（現県立益子芳星高等学校）開設に伴い発掘調査。竪穴住居跡 24 軒、掘立柱建物跡、井戸跡 3 基が確認された。石帯、円面硯、佐波理の匙など一般集落とは異なる遺物が出土しており、特別な集落であったと考えられる。
西明寺跡	寺伝によれば 737 年に紀有麻呂によって十一面観音を本尊とする芳賀山観音寺として創建され、788 年に弘法大師空海が入山し、独鈷山西明寺と改称したと伝えらえる。空海が入山した頃には 12 坊を擁する大寺院であったが、1127 年に堂宇が兵火によって焼失した。創建当初は権現平にあったとされ、その周辺には古代の西明寺跡の遺構が埋蔵されている可能性がある。

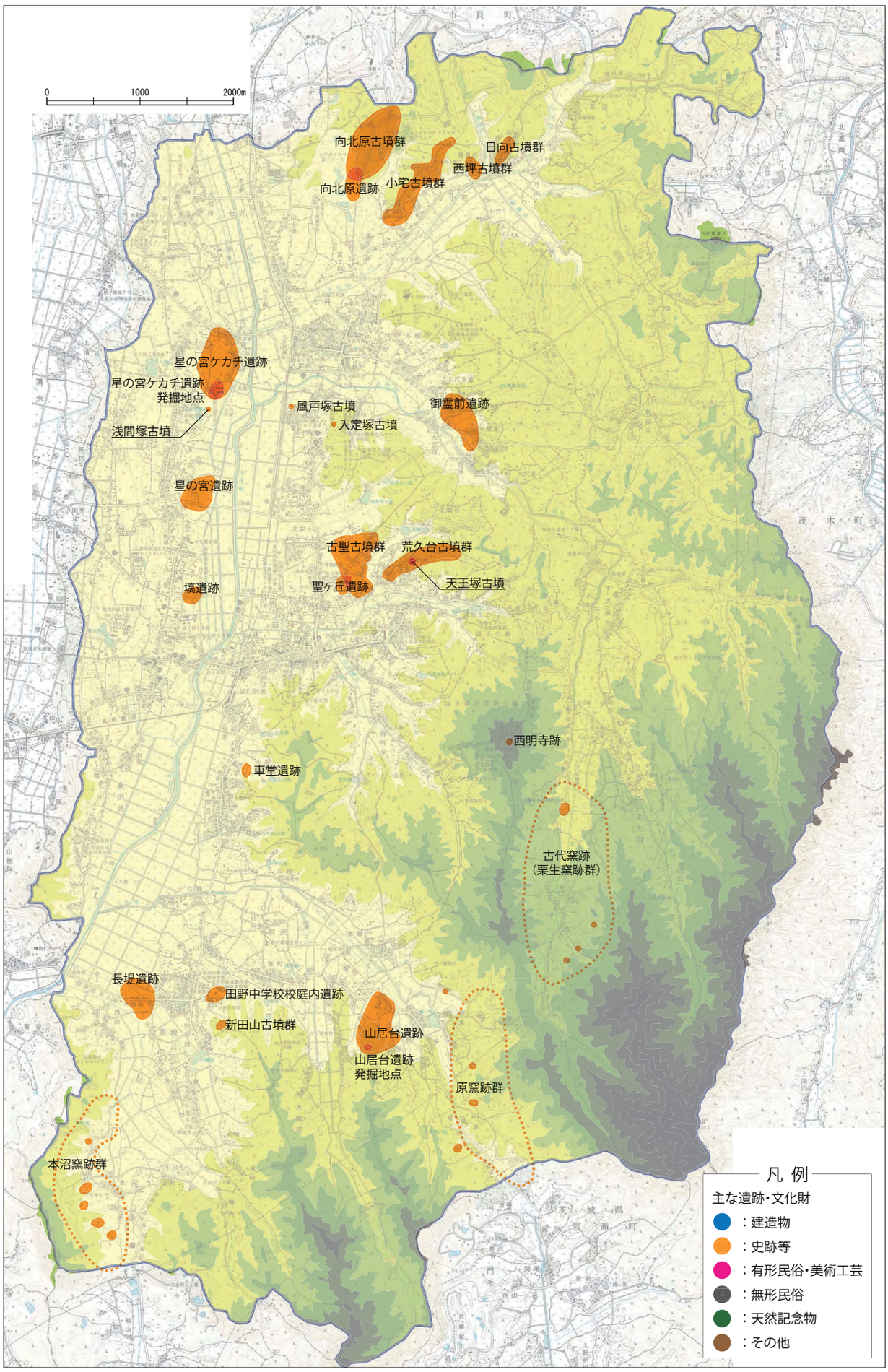

図 2-6　古代の主な遺跡・文化財分布図

（２）中世

『下野国誌』によれば、平安時代末期（1058 年～ 65 年）に紀古佐美を祖とする紀正隆が益子郷に入部し、那流山麓に城を築いたという。紀氏は紀伊国（現在の和歌山県）を中心に居住していた一族で、正隆の娘は宇都宮氏初代宗円に嫁ぎ、宇都宮家 2 代宗綱の母となったといわれている。別に紀貫之を祖とする紀之宗が益子に入部し、那流山に城を築いたとする説もある。

宇都宮氏は摂関家藤原北家道兼流を称し、初代宗円が源頼義、義家の奥州合戦（前九年の役）での功により、宇都宮二荒山神社座主に任じられて以来、22 代・400 年にわたって下野国を中心に活躍した名族である。益子氏は宇都宮氏と婚姻を通じて親密な関係をもちながら、益子の地に進出してきたと伝えられる。

中世（鎌倉時代～室町時代）の益子は益子氏の支配の下、宇都宮氏や益子氏の庇護を受けて、多くの寺社が創建・整備され、文化的にも経済的にも隆盛を迎えた。

表 2-4　中世の主な遺跡・文化財

名　称	概　要
尾羽寺跡	宇都宮朝綱が最初に隠棲するために整備した寺。本堂を中心に鶴亀の池・地蔵院阿弥陀堂・多宝塔と浄土庭園を有した寺であった。寛正 5 年（1464）山火事の類焼により焼失、再建されたが、文化年間（1804 ～ 1818）の火災により再び焼失した。焼失を免れた阿弥陀堂（現地蔵院本堂）は国の重要文化財に指定されている。
旧地蔵院跡	旧地蔵院は建久 7 年（1196）宇都宮朝綱によって創建。朝綱は尾羽寺から地蔵院に移住し、阿弥陀三尊を本尊として日々の生活の場とすると共に、情報収集や作戦会議、宇都宮城から来る重臣の宿泊の場としても利用されたと伝えられる。大正 14 年（1925）に廃寺となった。
地蔵院本堂 （国指定文化財）	永正年間（1504 ～ 1521）の建立とされている国指定重要文化財である。尾羽寺の阿弥陀堂が火災を免れたのち、明治になり地蔵院本堂となった。木造阿弥陀三尊像や絹本著色両界曼荼羅図等が収められている。
宇都宮家の墓所 （県指定文化財）	現地蔵院に隣接する上大羽に所在。大羽の地に隠棲した宇都宮朝綱は、地蔵院を創建して間もなく初代宗円、2 代宗綱の墓を築き、自らの墓も定めてこの地を宇都宮家の菩提所とする旨を一族郎党に宣言したという。初代宗円より 33 代政綱まで五輪塔 29 基、石碑 4 基がある。
西明寺三重塔 西明寺楼門 （国指定文化財）	西明寺境内の建造物の内、三重塔と楼門は、室町時代に建立されたものが現存しており、共に国の重要文化財に指定されている。三重塔は関東以北でも古い塔の一つに数えられている。
円通寺 円通寺表門 （国指定文化財）	良栄上人は応永元年（1394）大平字舟橋に舟橋談所（虎溪院）を開いた後、応永 9 年（1402）に大沢字御座内に円通寺を開く。学問所として大沢文庫を設け、多くの書籍や経典を有した。天文 10 年（1541）の大火により、表門のみを残して堂宇が焼失したが、益子氏の援助を受けて天文 22 年（1553）から永禄 2 年（1559）にかけて現在地に堂宇を建立し、表門は移築した。天正 2 年（1574）には正親町天皇により綸旨を賜り勅願所となり、東国有数の寺院の地位を得た。表門は国の重要文化財に指定されている。
綱神社本殿 綱神社摂社大倉神社本殿 （国指定文化財）	宇都宮朝綱が土佐に配流された折、土佐の加茂（鴨）明神に赦免を祈願し、その後、帰国した時に土佐の加茂（鴨）明神を勧請したのが始まりと言われている。本殿は建久 5 年（1194）に創建され、大永年間（1521 ～ 28）に再建された。明治に入り綱神社と名称を改めた。摂社の大倉神社本殿と共に国の重要文化財に指定されている。
山本古屋城跡	笠間氏の一族である高塩伊勢守によって大永年間（1521 ～ 28）に築城されたと伝えられる。その後益子氏との戦いで、久下田城主水谷蟠龍斎らの援軍を得た益子家宗により攻め落とされた。
田野城跡	笠間氏の郎党羽石時政が築城したといわれているが、それ以前に 6 代笠間城主の二男宗時が名前を羽石と改めて居住したとも伝えられる。天正 13 年（1585）に結城氏家臣の水谷蟠龍斎、益子勝宗の攻撃によって落城した。
小宅城跡	益子氏と並ぶ宇都宮氏の重臣芳賀氏が領域の東端を抑えるために、永仁 2 年（1294）に築城したといわれる。豊臣秀吉の命により、宇都宮氏が改易されて所領を没収された慶長 2 年（1597）に廃城となった。

名　称	概　要
高館城跡 （西明寺城跡） （町指定文化財）	元は、権現平の旧西明寺境内跡地に紀氏（後の益子氏）により築城されたと伝えられる。当初はこの地の北側に館を築いたが、西明寺焼失後に城を築いたといわれている。南北朝時代に南朝方が改造して高館山頂に西明寺城を築城した。安土桃山時代には益子勝宗が高館城に居城を移したが、現在も当時の土塁や空堀等の遺構を見ることができる。
益子古館城跡 （根古屋城跡）	鎌倉時代後期に益子氏が領地の支配を行う拠点とする平時の城として築いたと伝えられる。南と西を山に囲まれた丘の中腹に立地し、南方を守る出城として石並城が築かれた。
御城山遺跡 （益子古城・古城跡） （町指定文化財）	益子古城とも呼ばれ、益子氏の居城であった。陶芸メッセ・益子の建設に伴う発掘調査で、本郭を中心に空堀や堀切で南・東・西郭に分けられていることが確認された。
大郷戸廃寺跡五輪塔群 （町指定文化財）	昭和 35 年（1960）に郷戸廃寺跡近くの行灯峰山中より、土砂崩れによって多くの五輪塔が散在した状態で出土した。五輪塔と共に火葬骨を入れた瓶子 5 個が発見された。近年の発掘調査の結果、5 基の五輪塔の他に地輪 20 基、水輪 3 基、火輪 21 基、空風輪 20 基が確認された。時期は鎌倉時代末期から室町時代初期頃のものと推定される。
羽石家五輪塔 （町指定文化財）	大字前沢の長谷寺に所在。鎌倉時代から室町時代のもので、約 300 年間田野城主として一帯を支配した羽石家の墓といわれる。
西明寺本堂内厨子 （国指定文化財）	西明寺本堂と同時期の明徳元年（1390）に着工し、応永元年（1394）に完成した。唐様の一間厨子方形造りの板葺きで外部は黒漆塗りである。厨子内には西明寺の秘仏である平安時代に造られた木造十一面観音菩薩立像他 8 体の仏像（県指定文化財）が安置されている。
西明寺仏像群 （県指定文化財）	上記の厨子内の仏像群の他に、鎌倉時代の木造千手観音菩薩立像附木札六枚、木造千手観音菩薩座像が県指定文化財となっている。
木造阿弥陀三尊像 （県指定文化財）	地蔵院所蔵。鎌倉時代の作であり、慶派系（快慶一門）の仏師により作られたと見られる。表面の箔は寛永 10 年（1633）に京都の仏師慶運によって修理された際のものである。
木造阿弥陀三尊像 （県指定文化財）	地蔵院所蔵。宇都宮朝綱が建立した尾羽寺の本尊であったが、火災の際に運び出されたものと伝えられる。平安時代末期のものであると考えられる。
銅造阿弥陀如来立像・両脇侍（県指定文化財）	円通寺所蔵。善光寺式阿弥陀三尊で鎌倉時代末期の銅製の鋳造仏の特色がある。円通寺の開祖の良栄上人が円通寺創建時に持参したといわれている。
銅造阿弥陀如来立像 （県指定文化財）	光明寺所蔵。造形の特徴から鎌倉時代後期の作と推定される。
木造如意輪観世音菩薩座像（県指定文化財）	観音寺所蔵。鎌倉時代の作と推定される。
宋版大般若経 （町指定文化財）	中国宋の時代（960 ～ 1279 年）に木版によって印刷された大般若経である。留学僧や日宋貿易により日本にもたらされた。地蔵院所蔵のものは元は尾羽寺に納経されたもので、「下野國尾羽寺」の刻印が押してある。当時は貴重な文献であったため、円通寺の良栄上人、小石川傳通院の了誉上人など、各地から多くの僧が集まったといわれている。
絹本著色両界曼荼羅図 （県指定文化財）	永禄 11 年（1568）宇都宮に住んでいた絵師縲来雅楽尉によって製作され、宇都宮氏の菩提寺であった地蔵院に納められた金剛界曼荼羅図・胎蔵界曼荼羅図。諸尊の悟りの世界を象徴するものとして諸仏が描かれている。
大六天の森の墓	木曽義仲の嫡子、清水冠者義高や源頼朝の異母弟、阿野全成等の墓とされている 2 基の五輪塔。

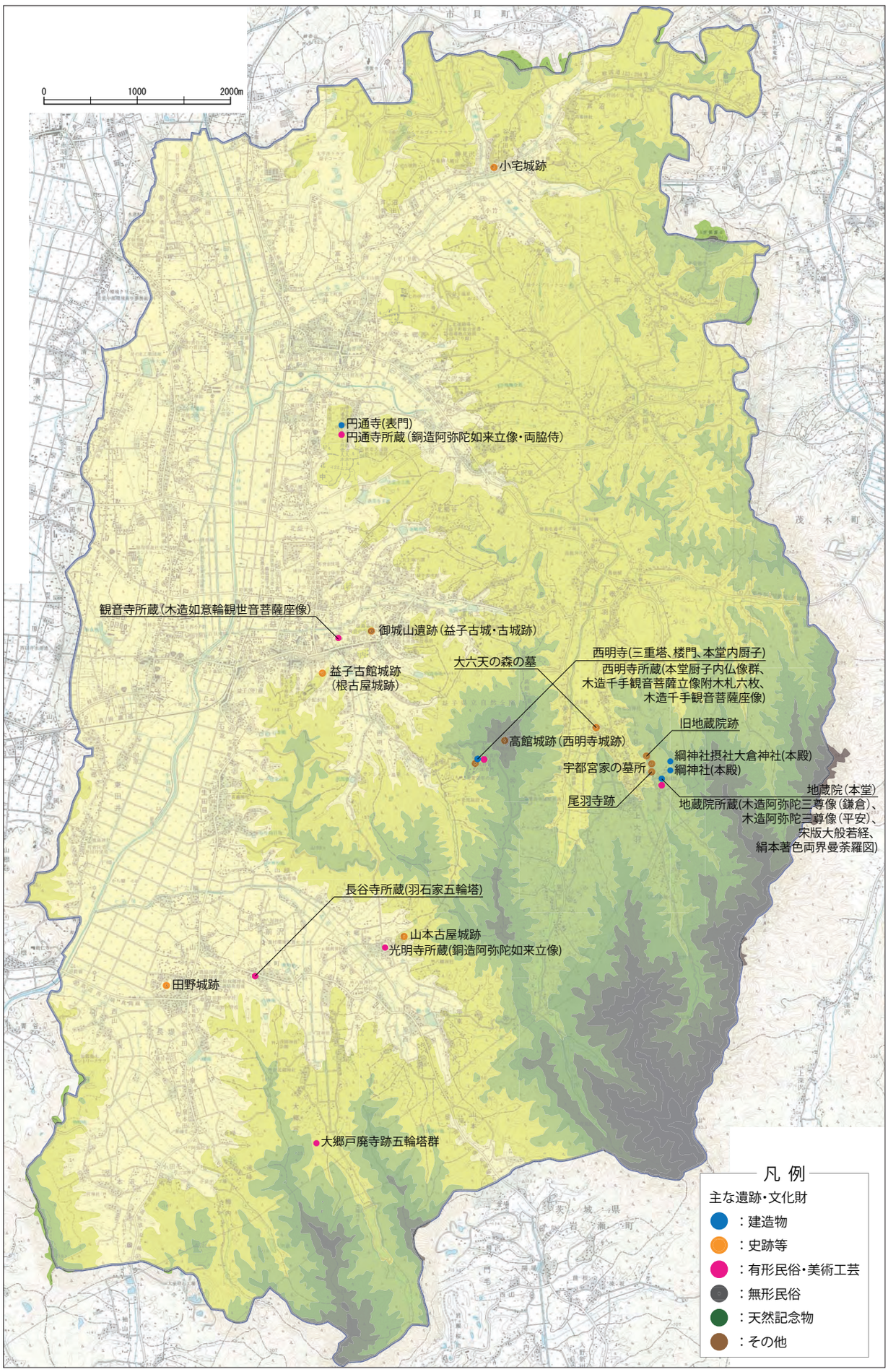

図 2-7　中世の主な遺跡・文化財分布図

（3）近世

天正 17 年（1589）益子氏は所領である益子の地を追われた。益子氏の没落には諸説あるが、主家である宇都宮氏や有力家臣である芳賀氏との対立が原因という説が有力である。慶長 2 年(1597)には、宇都宮氏が突然豊臣秀吉から改易処分をうけ、所領を没収された。これにより、平安時代末期より益子とその周辺の地を治めてきた宇都宮氏とその有力家臣である益子氏、芳賀氏、多功氏等の名族が、先祖伝来の地を失った。

江戸時代の益子は 21 か村で構成され、総石高は約 18000 石であったが、江戸に近く物資を供給するのに便利な地であったため、幕府の直轄地（天領）、旗本の領地（知行地）、大名の飛地（藩領）等に分けられ、多くの村は複数の領主によって支配された。益子から鬼怒川の水運を利用して江戸に運ばれた物資は、年貢米の他に炭、味噌、薪等であり、特に薪と炭が主要な物資であった。里山の森林資源が貴重な物産となっていたことがうかがえる。江戸時代末期には笠間で焼き物の技術を習得していた大塚啓三郎が、益子地区道祖土の大津沢にて良質な陶土を発見したのをきっかけに益子焼が誕生し、黒羽藩の保護奨励もあって益子を代表する特産品としての基礎を築いた。

表 2-5　近世の主な領主 /『のびゆく益子』(2015) より引用

（単位：石）

村名	1640年		1850年		廃
七井	幕府	835	別所（旗本）	377	日
			石野（旗本）	377	日
			鈴木（旗本）	81	日
	芦野（旗本）	177	芦野（旗本）	177	黒
	黒羽藩公知衆	380	黒羽藩	380	大
	大田原藩	207	大田原藩	386	日
	喜連川藩	178	喜連川藩	188	日
	大田原（旗本）	149	大田原（旗本）	153	日
	山王神社	13	山王神社	13	大
	観音院	7	観音院	8	黒
	正法寺	5	正法寺	5	大
大沢	新庄藩	1098	幕府	310	日
			曲直瀬（旗本）	393	日
			梶川（旗本）	200	日
			川村（旗本）	89	日
			杉原（旗本）	84	日
			土屋（旗本）	28	日
			榊原（旗本）	28	日
	円通寺	60	円通寺	60	日
芦沼	茂木藩	701	茂木藩	701	茂
	高龍明神社	1	高龍明神社	1	茂
大平	大田原藩	326	大田原藩	326	大
	安善寺	5	安善寺	5	大
小宅	幕府	377	河野（旗本）	483	日
			曲直瀬（旗本）	294	日
	芦野（旗本）	126	芦野（旗本）	126	日
	亀岡八幡宮	42	亀岡八幡宮	21	日
中村	小田原藩	483	幕府	483	日
	黒羽藩	236	石原（旗本）	277	日
			曲直瀬（旗本）	75	日
	西光寺	5	西光寺	5	日
小計		5,411石		6,134石	

村名	1640年		1850年		廃
北益子			石原（旗本）	322	日
益子	黒羽藩	951	黒羽藩	1,734	黒
	黒羽藩公知衆	611			
	西明寺	40	西明寺	41	黒
	観音寺	15	観音寺	15	黒
	鶏足寺	15	鶏足寺	16	黒
	正宗寺	7	正宗寺	9	黒
	鹿島神社	7	鹿島神社	7	黒
	金剛寺	5	金剛寺	7	黒
上大羽	黒羽藩	940	黒羽藩	1,011	黒
	地蔵院	30	地蔵院	30	黒
	阿弥陀寺	20	阿弥陀寺	20	黒
	網神社	15	網神社	15	黒
	地蔵堂	5	地蔵堂	5	黒
下大羽	黒羽藩	442	幕府	401	日
			曲直瀬（旗本）	100	日
生田目	黒羽藩公知衆	589	黒羽藩	842	黒
塙	小田原藩	912	幕府	1,029	日
	明林寺	3	明林寺	3	日
	閑空院	3	閑空院	3	日
小計		4,610石		5,610石	
山本	小田原藩	1,481	幕府	1,481	日
	光明寺	7	光明寺	7	日
	東光寺	7	東光寺	7	日
	興学寺薬師堂	5	興学寺薬師堂	5	日
上山	下館藩	1,075	幕府	10	日
			酒井（旗本）	1,062	日
			無量寿院	5	日
大郷戸	下館藩	74	幕府	74	日
小泉	下館藩	636	松平（旗本）	636	日
長堤	下館藩	1,154	松平（旗本）	1,083	結
			結城藩	71	日
前沢	下館藩	877	結城藩	871	結
本沼	幕府 小川（旗本）	140	曲渕（旗本）	148	日
東田井	小田原藩	842	幕府	842	日
梅ヶ内	幕府	58	阿部（旗本）	58	日
小計		6,356石		6,360石	
総計		16,377石		18,104石	

・幕府領、旗本領、藩領、主な寺社領の石高で、数字の下の〰は、前後の年代から石高を推計した値である。

・廃は1871年（明治4）の廃藩置県時の県名で、日は日光県、黒は黒羽県、大は大田原県、茂は茂木県、結は結城県を表す。

・総計が増加しているのは、新田開発等の結果と思われる。

表 2-6　近世の主な遺跡・文化財

名　称	概　要
西明寺本堂 西明寺鐘楼 (県指定文化財)	西明寺本堂は室町時代に益子勝直によって開扉供養が行われたが、現存する建物は元禄 14 年（1701）の大改修後のすがたを伝えている。内外陣の彩色彫刻が施された欄間が特徴的である。鐘楼は一層が角柱、二層は円柱で享保 7 年（1722）の建立である。
西明寺閻魔堂 西明寺大師堂 (町指定文化財)	閻魔堂は正徳 4 年（1714）の建立で、内部に閻魔大王、善童子、悪童子（以上県指定文化財）、脱衣婆、地蔵尊の五体の仏像が安置してある。大師堂は町内唯一の江戸時代中期の建造物で、近郷の信者が寄進した石造りの弘法大師像が祀られている。
円通寺一切経塔 (県指定文化財)	円通寺一切経堂は、大沢文庫の経典や書籍類を保管した建物である。火災で消失していたが、円通寺四十世良範上人が文化 6 年（1809）に入山、再興した。中世より江戸時代まで文化の中心を成した大沢文庫の面影を伝える建物である。
長堤八幡宮本殿 (町指定文化財)	長堤八幡宮は源義家が奥羽鎮征の折に、戦勝祈願を行った地と伝えられる。康平 6 年(1063)に創建、嘉吉 3 年（1443）に宇都宮明綱によって再建されるが、天正 13 年（1585）に社殿が焼失した。現社殿は元禄 16 年（1703）に再建されたものである。
日枝神社本殿 (町指定文化財)	神護景雲 2 年（768）の創建で、矢嶋郷総鎮守として崇められた。その後一時荒廃したが、長久元年(1040)矢島城主七井刑部太夫縁頼治が再建した。本堂は享保 4 年(1719)の建立で、花鳥の彫刻を施した江戸中期の様式を伝える建物である。
光明寺薬師堂 (町指定文化財)	建立は江戸中期と推定。本尊の薬師如来像は春日の作といわれ、山本城主高塩伊勢守の本尊であったと伝えられる。目に関する信仰が高く、縁日には多くの人で賑わった。
安善寺本堂 (町指定文化財)	享保 15 年（1730）に再建。廊下は県内唯一のウグイス張りで、須弥壇は江戸中期の特徴を表している。
鶏足寺山門 (町指定文化財)	鶏足寺は大永 2 年（1522）山本城主高塩伊勢守によって建立されたと伝えられる。禅宗寺院として栄えたが、明治 44 年（1911）に火災にあい、山門を残して消失した。現在の本堂その他の建造物は明治 44 年以降に再建されたものであるが、山門は江戸時代のものであると考えられる。
日下田邸(染色工房併用) (県指定文化財)	藍染業「日下田紺屋」の住居と作業場を兼ねた建物である。寛政年間(1789～1801)の建造で、藍染業が盛んだったころの紺屋の様子が窺える。
木造閻魔王座像・両脇侍像（県指定文化財）	西明寺閻魔堂の中に安置されている仏像の一つで、「笑いエンマ」として親しまれている。寛永 10 年（1633）の作である。
木造良栄上人像 (県指定文化財)	円通寺開山の祖良栄上人の像と伝えられている。益子村の仏師小堀長勝の作であり、元禄 8 年（1695）に開眼供養が行われたことが墨書より確認できる。
元禄絵地図 (町指定文化財)	左上に元禄十四年壬午年四月と記されており、元禄 14 年（1701）に製作された地図であることがわかる。また、百間を二寸に縮小して (1/3000) 地図を作ったことも記されている。当時の益子村の様子を示した地図で、道路は朱線で、池および河川を青で、山は樹木を緑で、御朱印地は桃色で彩色されている。民家は屋根型で、田畑の区分は文字をもって表示している。高館城跡をはじめ、中世の城館の堀も青で示されている。当時の地勢や人家の散在状況、中世城館の遺存状態などを伝える貴重な資料である。
文化絵地図 (町指定文化財)	図面裏の端に「文化弐年八月作之助写　城内作右ヱ門持」と記されている。上記の元禄絵地図の写しである。文化 2 年（1805）に写されたことがわかる。
天保絵地図(長堤村地図) (町指定文化財)	左下に「干時天保六乙未初冬図之」とあり、説明を挟んで「野州大羽　紫齋光重筆　野州田野長堤村　柳善右ヱ門」とあり、天保 6 年（1835）製作の長堤村の様子を示した地図であることがわかる。道路を朱で、田を緑、畑を黄色で表し、そこに地番、耕地の種類と良し悪し、所有者、耕作者名が記載され、変更の場合は和紙を貼って名前等を書き直している。
絹本著色鮎図 (県指定文化財)	益子村出身の画家小泉斐が文化 10 年（1813）に描いた鮎の絵である。小泉斐は谷文晁の門下で、鮎の画家として天下に認められた。27 匹の鮎が左右に泳いでいる様子を描いている。
歌舞伎舞台背景襖絵 (町指定文化財)	歌舞伎舞台背景の襖絵で幅 0.61 m、高さ 1.69 mの大きさのものが 12 枚一組となっている。文政年間（1820 頃）の作品と推察できる。筆者は江戸時代末期の真岡出身の画家安達三楽斎元善である。「鶴松の図」、「高麗犬の図」、「紅葉遊鹿の図」、「雲龍の図」等の襖絵から成る。
襖絵 (町指定文化財)	妙伝寺本堂の襖に描かれた作品で、歌舞伎舞台背景襖絵と同時期に安達三楽斎元善によって描かれたと考えられる。表側に末に鳳凰、裏側には竹と梅が描かれている。
真言八祖絵図 (町指定文化財)	高館城落城の折に田野地区東田井の東光寺に持ち込まれ、現在は東田井自治会が所有している。真言宗の名僧 8 名の肖像画で、安土桃山時代から江戸時代初期の作であると考えられる。
藤根善治の墓 (町指定文化財)	享保 14 年（1729）に凶作により困窮した下之庄七か村の村民が、一揆をおこし黒羽藩代官を襲撃しようとした時、黒羽藩主に直訴し処刑された藤根善治の墓。一揆は凶作により年貢が米から薪になったが、上納できず名主たちが牢に入れられたことがきっかけだった。善治の直訴により名主たちは釈放されが、直訴は大罪であったため、善治は家族と共に処刑された。村人たちによって善治親子 3 人の墓碑が建てられ、お焚き木様として供養された。

名　称	概　要
街道沿いの石碑	宇都宮と水戸を結ぶ水戸北街道、真岡と烏山を結ぶ烏山東街道、江戸と東北を結ぶ奥州中街道の一部である辰街道等、当時、益子を通っていた主要街道沿いに残されている石碑。道標の他に二十三夜講や地蔵などの供養や信仰を願うものがある。
正親町天皇綸旨 （県指定文化財）	円通寺を勅願所とする旨が記された正親町天皇の綸旨書である。天正二年（1574）六月廿六日の日付がある。
聖鬮賛 （県指定文化財）	円通寺所蔵。浄土宗の名僧良山の著書である「初学題学習」の注釈書で、元和９年（1623）に奈良から円通寺へ大沢文庫の書籍として奉納されたもの。
浄土総系図 （県指定文化財）	円通寺所蔵。浄土宗の系図を記したもの。全２巻で、１巻目は円通寺の学僧によって編述されたものを元禄 11 年（1698）に良因という僧が写したものである。もう１巻は江戸初期に円通寺の良定が京都で入手して円通寺に寄進したものと伝えられる。奥書に永正三年（1506）丙寅三月九日とある。
月形函文書 （県指定文化財）	円通寺所蔵。浄土宗鎮西義名越派大沢流の教義の真髄を説いた最も重要な文書とされ全 70 冊が月形函に納められている。良栄をはじめ歴代の住持の口述筆記した秘伝書であり、住持替の時にだけ７日潔斎、３日精進の後に引き継がれたと伝えられる。
浄土鎮西義名越派代々印璽脈譜 （県指定文化財）	円通寺所蔵。上・中・下巻の３巻から成る。上巻は応永 18 年（1411）良栄から、天正 11 年（1583）良興より良賢に授けたものまで 11 通、中巻は元禄９年（1696）良安から文政４年（1821）良範にいたる 25 通、下巻は文政 11 年（1828）良猛より明治 14 年（1881）良頓にいたる 11 通の血脈を納めている。
祇園祭（天王祭）	毎年７月 23 日～ 25 日までの３日間行われる八坂神社の祭。７月 23 日　出御式、７月 24 日御神酒頂戴式、７月 25 日　還御祭・御照覧から成る。また、７月 24 日と 25 日は彫刻屋台で練り歩く付け祭りもある。
八坂神社御神酒頂戴式 （町指定文化財）	益子地区の夏祭りである祇園祭（天王祭）で行われる行事。宝永２年（1705）ころ、益子村の領主であった黒羽藩の大関公から各地区に御神酒を賜ったことより始まったと言われている。1年365日にちなんで3升6合5勺入りの大杯に注がれた燗酒を飲み干し、五穀豊穣、無病息災、家内安全を祈願する。
溜池	現在も益子の各地に散在する溜池は、雨の少ない益子で農業用水としてつくられたものと言われている。元禄絵地図には既に多くの溜池が描かれている。

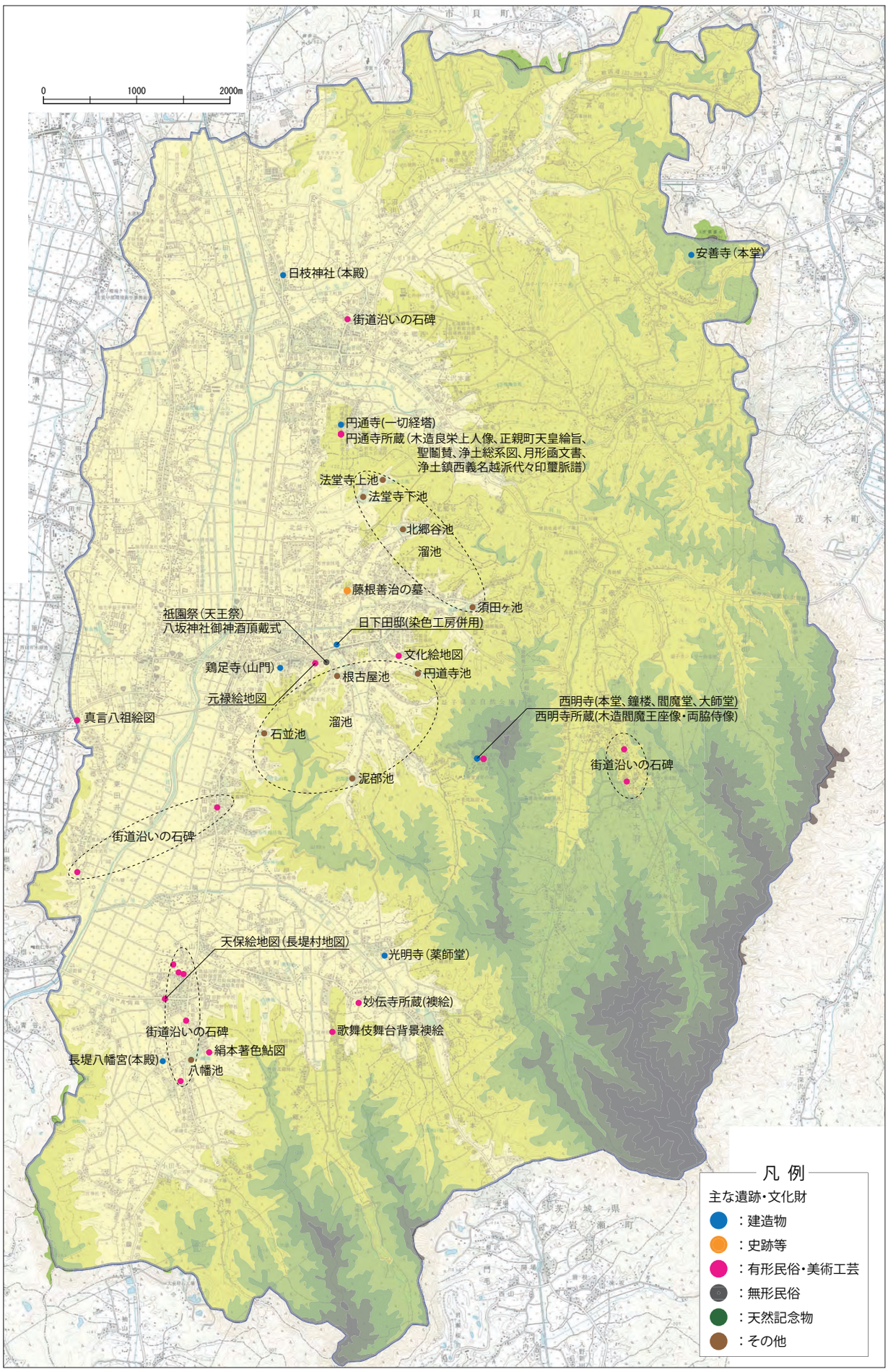

図 2-8　近世の主な遺跡・文化財分布図

（4）近代以降

明治 4 年（1871）の廃藩置県により、旧藩が県になり益子地域の 21 か村は諸県が複雑に入り組むことになったが、その後、整理統合が行われ、すべて宇都宮県に属することになった。明治 6 年（1873）に宇都宮県と栃木県が合併し、栃木県が成立した。明治 21 年（1888）には市町村制が公布され、これによって現在の益子町を成す田野村・益子町・七井村が成立した。幕末から始められた益子焼は、東京方面からの需要が伸びて製陶業としての歩みを始めた。

大正 2 年（1913）に真岡線が開通し、益子地域では益子駅、七井駅が設置された。益子町では明治時代末期より大字益子を中心に市街地が形成されていたが、益子駅の設置により、一段と町が拡大した。七井でも七井宿を中心に商店街が形成された。

大正 13 年（1924）、益子焼に深い関心を示していた濱田庄司が、益子町に移り住み作陶を開始した。柳宗悦、河井寛次郎らと共に民藝運動を展開した濱田庄司が益子に移住したことにより、益子は民藝運動の拠点の一つとなった。

第二次世界大戦後、昭和 29 年（1954）に田野村・益子町・七井村が合併して益子町となった。1960 年代に日本が高度経済成長の時代を迎えると、集団就職等で中学校を卒業した若者が町外に出ていくようになった。こうした状況を背景に益子町でも工場誘致に取り組んだ。また、この頃から益子焼もそれまでの日用品中心の生産から、民藝陶器の生産へと移る窯元が多くなった。窯元の設立に寛容な益子の土地柄もあり、地元出身に加え他地域からの転入者によって窯元数も飛躍的に増加し、益子焼の小売店も増えていった。春と秋に開催される「陶器市」には約 60 万人の観光客が訪れる。

表 2-7　近代以降の主な遺跡・文化財

名　称	概　要
内町・新町・田町彫刻屋台 （町指定文化財）	益子の祇園祭で引き回される屋台で、内町、新町、田町の各自治会が所蔵管理している。それぞれに趣向を凝らした見事な彫刻が施されているのが特徴である。江戸時代後期に作られたものだが、明治時代に宇都宮から購入して、現在にいたっている。
原彫刻屋台 松本屋台 （町指定文化財）	原・松本自治会が所蔵管理している屋台で、山本地区の祇園祭で引き回される。江戸時代後期に原彫刻屋台は宇都宮、松本屋台は京都でそれぞれ作られたものである。
益子参考館上台（うえんだい） （旧濱田庄司邸離れ） （県指定文化財）	来客者の宿泊所として益子町小宅の高野家母屋を昭和 17 年（1942）に解体移築したもの。大規模な寄棟造茅葺で南面して建ち桁行 14 間、梁間 7 間、正面に入母屋造の式台を突き出す。桁行 6 間が土間部で、三重梁を架け、東側に馬屋跡、西側の土間境には居間、中廊下、北の間が並ぶ。上段の間は床棚付書院を備え、次の間と角間境には意匠を凝らした筏欄間がはめ込まれるなど、整った室内構成をもつ。棟高や軒高の高さ、平面構成、部材の古さなどから江戸時代末期の創建と考えられる。
旧濱田庄司の母屋 （町指定文化財）	濱田庄司が母屋兼作業場としていた建物である。江戸時代後期に市貝町で建築され、その後茂木町菅又に移築されていたものを濱田が気に入り、昭和 5 年（1930）に移築し、母屋として使用し、長屋門内の仕事場や細工場とともに作陶の中心となっていた。国内外の訪問者との交流の場でもあった。
益子参考館内登り窯 （町指定文化財）	濱田庄司によって築かれた窯であり、昭和 53 年（1978）に 83 歳で死去するまでの間、年 2 ～ 3 回の窯焼を行い、数々の作品を世に送り出した。
妙伝寺山門 （町指定文化財）	明治 40 年(1907)2 月に起工し、明治 41 年(1908)4 月 7 日に竣工した。棟梁は加藤伊之吉で、彫刻は名人と言われた宇都宮の彫刻師岡部信之助である。総工費は当時の金額で 2,148 円 24 銭、大工 1088 人手間、石工 371.5 人手間、彫刻 320 人手間等の記録がある。

名　称	概　要
益子参考館	陶芸家　濱田庄司が自らの創作に参考とした品々を、広く一般の人々にも「参考」にしてほしいとの意図のもとに、開設された美術館。濱田庄司の自邸・工房の一部を活用し、濱田庄司が生前に蒐集した品々と自身の作品をはじめ、僚友であった河井寛次郎、バーナード・リーチらの作品等を展示している。
城内坂通り	約 500m 続くゆるやかな坂の左右に、民芸店、ギャラリー、カフェ、雑貨店等が軒を連ね、益子を代表する街並み景観となっている。春と秋の陶器市もここで開催される。
大谷石蔵	大谷石の蔵。かつては大谷石の産地である宇都宮をはじめ、栃木県下に広く存在し、益子でも数多く見られた。
長屋門	益子参考館の入り口は濱田庄司が移築してきた長屋門があるが、この他にも益子には長屋門のある民家が散在している。
真岡鐵道小貝川橋梁	真岡鐵道に架設されている橋梁の一つ。C.A.W. ポーナルにより設計され、同じ真岡鐵道の五行川橋梁と共に現役最古のポニーワーレントラスであり、イギリス積みで組成された煉瓦橋脚である。
ベーハ小屋	葉煙草の乾燥小屋。アメリカ原産の黄色種と呼ばれる種類の葉煙草を乾燥させる小屋のため「米葉（米国の葉）小屋」→「ベーハ小屋」と呼ばれるようになったと言われる。葉煙草の栽培が盛んであった益子では数多く存在した。なお、ベーハ小屋という呼び名は、益子発祥説が最有力である。
旧つかもと平成館	元は奥日光湯元温泉の南間ホテルの建物であったが、昭和 48 年(1973)に現在地へ移築され、南間の名を残して益子南間荘としてホテル営業されていた。戦争末期に学習院初等科在学中の今上天皇が東京から学童疎開して滞在された建物であり、終戦の玉音放送もここで聞かれた。昭和 55 年（1980）の栃木国体に行啓した当時の皇太子殿下はここでの昼食の折、しばし往時を偲び美智子妃殿下を幾部屋か案内され、大変懐かしがられたという。
あじさい祭り	約 5000 株のあじさいが咲き誇る太平神社で毎年 6 月～ 7 月にかけて開催される祭り。祭り期間中に、4 人の稚児が巫女に扮し、あじさいを奉納する「献花祭」、地元特産の益子焼で制作された「陶板大神輿渡御」、境内に作られた茅の輪を 3 度くぐる「大祓式・夏越祭」が行われる。祭りは第二次世界大戦後に始ったが、地域の夏の祭りとして定着している。
陶器市	昭和 41 年（1966）から始まり、例年、春のゴールデンウィークと秋の 11 月 3 日前後に開催される。販売店約 50 店舗の他約 500 のテントが立ち並び、伝統的な益子焼からカップや皿などの日用品、美術品まで販売され、地元農産物や特産品の販売も行われる。春秋あわせて約 60 万人の人出があり、益子最大のイベントとなっている。
芦沼の獅子舞 (町指定文化財)	伝承によると、800 年以上の歴史を持つ獅子舞であると言われている。戦後一時途絶えていたが、昭和 47 年（1972）に復活し、昭和 49 年（1974）に町指定無形民俗文化財となる。毎年 8 月の第一土曜日に一万度という祭礼で地域の五穀豊穣・無病息災を願って奉納している。
土祭	平成 21 年(2009)から 3 年ごとに実施している新しい祭。益子の風土･先人の知恵に感謝し、この町で暮らす幸せの意味を共有し未来につなぐ祭。毎回益子の「歴史や風土」「自然環境」等をテーマに、アートの展示・演奏会・ワークショップ・セミナー等を町内各所で実施している。

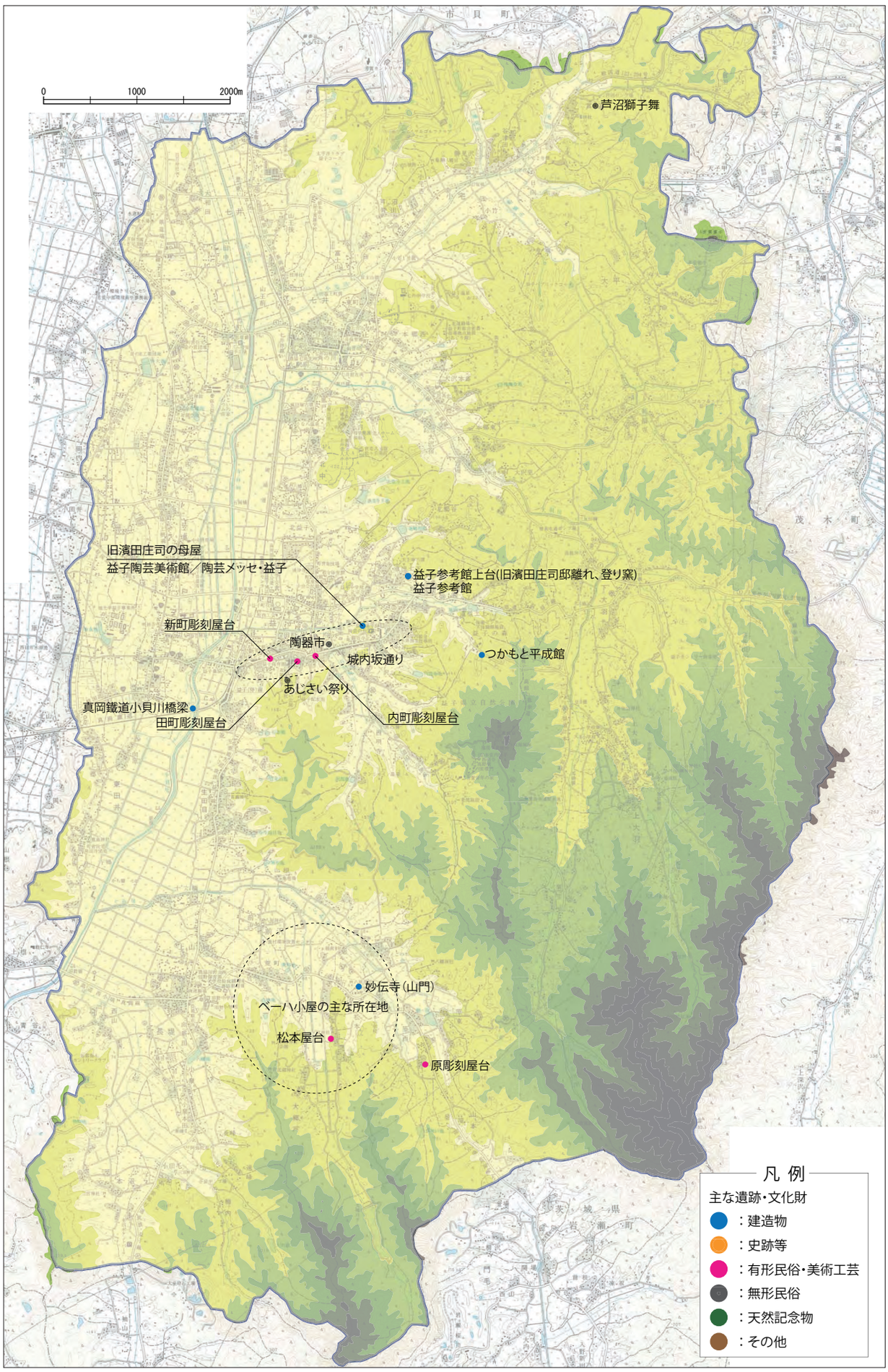

図 2-9　近代以降の主な文化財分布図

１－４　社会的状況

（１）人口の推移

益子町の人口は平成 28 年（2016）10 月時点で 23,057 人、平成 12 年（2000）に 25,685 人とピークを迎えて以降、減少が続いているが、世帯数については緩やかな増加傾向になっている。また、年少人口（0～14歳）及び生産年齢人口（15～64歳）の比率は減少する一方で、老年人口（65歳以上）の比率は増加傾向にあり、2 割を超えている。栃木県・国との比較では、年少人口（0 ～ 14 歳）がやや低くなっている。

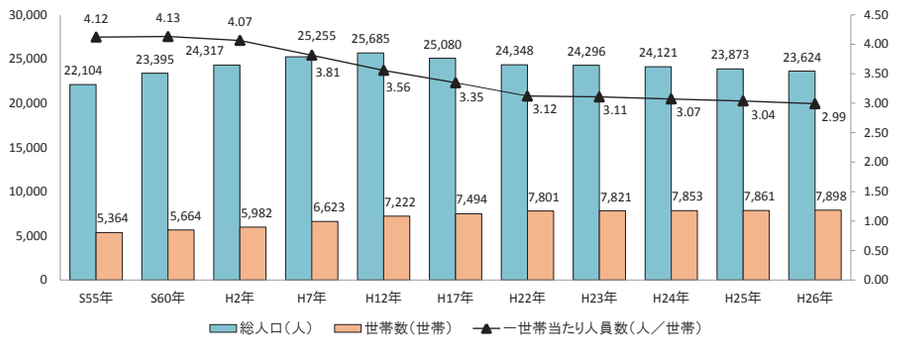

図 2-10　人口・世帯・一世帯当たり人員数の推移 / 新ましこ未来計画基礎調査報告書より

（２）主な産業

益子町の町内総生産額の産業別構成比をみると、平成 24 年（2012）では第一次産業が 3.9%、第二次産業が 29.3%、第三次産業が 66.2%となっており、平成 22 年（2010）以降、第二次産業の割合が増加し、第三次産業の割合は減少している。農業の主な生産物は生産量で米、麦、大豆で、生産額では米、いちご、なす等である。農家数は減少傾向にあるが、専業農家は平成 17 年度から 22 年度にかけて増加している。製造業では窯業（益子焼）が盛んであるが、事業所・従業者数ともに平成 7 年（1995）以降、減少傾向にある。

平成 25 年（2013）の観光客入込数は約 190 万人で、平成 24 年（2012）の約 197 万人に比べて減少しているが、平成 25 年（2013）の外国人を含む観光客宿泊数は 15,452 人で、平成 23 年（2011）以降、増加を続けている。

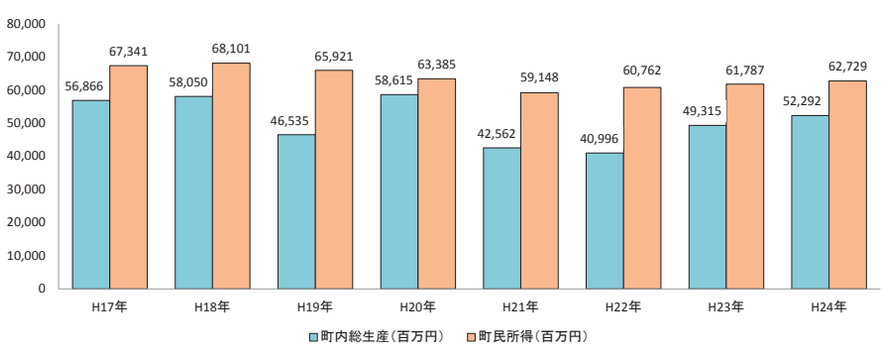

図 2-11　町内総生産額と町民所得 / 新ましこ未来計画基礎調査報告書より

（３）土地利用の状況

自然的な土地利用としては、町域中・東部から南部が概ね森林、町域西部が概ね農地となっており、河川沿いの農地が森林に入り込んでいる状況である。

都市的な土地利用としては、益子・七井の市街地に住宅等の建築物が集中し、田野をはじめとする主要な集落がいくつか形成されている。市街地以外では、特に、益子と七井を結ぶ一帯、小貝川以西の台地部などにおける建築物の立地が増加している。大規模な土地利用としては、近隣市町との境界部分などにおいて、ゴルフ場が多数整備されている。

２．文化財および歴史文化に関わる施策等

２－１　組織・体制

益子町の文化財行政は益子町文化財保護条例に基づき、生涯学習課が担当している。また、附属機関として益子町文化財保護審議会を置いている。国、県、民間等の関連団体との連携を密にし、補助金の交付や各種調査への対応、会議・研修会等への参加も積極的に行い、文化財の案内についても町観光協会や観光ボランティアと連携を図っている（第２章２－３参照）。

【益子町文化財保護条例】（第 1 条引用）

文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）第 182 条第 2 項の規定に基づき、法及び栃木県文化財保護条例（昭和 38 年栃木県条例第 20 号）の規定による指定を受けた文化財以外の文化財で益子町の区域内に存するもののうち町にとって重要なものについて、その保存及び活用のため必要な措置を講じ、もって町の文化的向上に資することを目的とする。

条例及び施行年月日：昭和 51 年 10 月 1 日

【益子町文化財保護審議会】（上記条例第 43 条引用）

地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）の規定に基づき、教育委員会の附属機関として益子町文化財保護審議会を置く。審議会は、教育委員会の諮問に応じて、文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議し及びこれらの事項に関して教育委員会に建議する。

組織：委員 5 人、調査委員 3 人

任期：2 年

回数：3 回（必要に応じ随時）

２－２　歴史文化に関わる施設

益子町の歴史文化に関わる施設として、以下のものが挙げられる。

表 2-8　歴史文化に関わる主な施設

名　称	概　要
益子町役場	一般行政事務等。ロビーにて町の紹介映像を放映、伝統工芸品の益子焼を展示。
町民センター （中央公民館・町民会館）	文化財業務全般（指定文化財の管理、埋蔵文化財包蔵地の確認、歴史講座の開催等）。埋蔵文化財の収蔵とロビーでの展示。「里山芸術祭」などの歴史文化関連イベントの開催。資料展示室にて県と連携した企画展の実施。
益子陶芸美術館／ 陶芸メッセ・益子	陶芸に関する美術展示（常設展・企画展）。益子の焼き物に関する歴史展示（常設展）。国際交流館にてアーティスト・イン・レジデンスの実施。笹島喜平館にて益子町生まれの木版画家・笹島喜平の作品を常設展示。
あぐり館	ロビーにて埋蔵文化財の展示。
フォレスト益子	展示室にて益子の自然や歴史文化の紹介。研修室にて自然体験学習等の講演会の実施。
道の駅ましこ	ましこのコンシェルジュの設置（観光案内、オープンスペースの貸し出し等）。構内にて町内在住作家等の作品展示、紹介。
益子町観光協会	観光案内、観光イベントの実施。
益子参考館 （私立博物館）	民藝運動の中心的人物であり陶芸家の濱田庄司の作品、蒐集品の保存・管理、展示（常設展・企画展）。講座の実施。
ワグナー・ナンドール アートギャラリー	ワグナー・ナンドール（和久奈南都留）の作品を展示・保存。春秋に作品公開。
内町屋台パーク	益子祇園祭で引きまわされる内町彫刻屋台（町指定文化財）を保存・常設展示。
新町屋台パーク	益子祇園祭で引きまわされる新町彫刻屋台（町指定文化財）を保存・常設展示。
田町屋台パーク	益子祇園祭で引きまわされる田町彫刻屋台（町指定文化財）を保存・常設展示。

２－３　歴史文化に関わる施策及び事業

益子町の歴史文化に関わる施策及び事業として、以下のものが挙げられる。

表 2-9　歴史文化に関わる施策及び事業

名　称	概　要
文化財の保存	・教育委員会から文化財保護審議会で諮問を受け、文化財の指定にふさわしいか審議、答申 ・県教育委員会への指定文化財申請及び町指定文化財の報告 ・埋蔵文化財包蔵地の確認作業、包蔵地の周知、県文化財課との協議・調整
文化財の調査	・埋蔵文化財関係で工事立会や試掘調査 ・『芳賀の文化財』発行に伴うテーマに応じた文献調査等の実施（現在 25 集まで発刊） ・国や県からの各調査に対する対応
文化財の 普及・公開・活用	・小中学校の副読本作成協力や、総合的な学習への協力を通じた学校教育での普及。 ・一般の方からの文化財等の問い合わせに随時回答 ・文化財探検隊や歴史講座・歴史めぐり・文化財ガイド養成講座等の体験学習会の開催 ・里山芸術祭・伝統芸能フェスティバル等イベントの開催 ・地域活動での文化財整備への協力 ・文化財冊子等の販売。 ・町民会館内展示コーナーでの町出土遺物の紹介
指定文化財の保存・活用	・指定文化財の傷みや破損状況に応じた補助金の交付 国指定→国が 5 割（所得による）補助し、残りを県・町・所有者で 3 分割 県指定→県が 5 割補助し、残りを町・所有者で 2 分割 町指定→町が 5 割（上限 500 万円）補助し、所有者が残り 5 割を負担 ※益子町文化財保存事業補助金交付要領による（平成 26 年改正） ・維持保存のための民俗芸能等への補助金の交付 ・県文化財保護委員として 2 名委嘱し、月 1 回のパトロールと県への報告 ・文化財防火訓練の実施（所有者・消防署・地元消防団・文化財審議会委員・教育委員・町担当部署が連携して実施） ・清掃活動への助成 ・町広報誌などで地域活動の紹介 ・観光ボランティアガイドと連携した文化財の案内

２－４　歴史文化に関わる町民等の活動

町内の各地域が地域づくりの活動を通じて、歴史文化の調査・保存・継承、活用等を行っている。以下に益子町における歴史文化に関わる、主要な町民団体の活動概要を示す。

表 2-10　歴史文化に関わる主な町民等の活動

名　称	概　要
観光ボランティアガイドましこ	文化財、歴史、風土、益子焼の案内
芦沼獅子舞保存会	芦沼獅子舞の保存と継承
綱神社太々神楽保存会	太々神楽の保存と継承
長堤八幡宮神社宮比講	太々神楽の保存と継承
山本鹿島神社氏子	太々神楽の保存と継承
妙伝寺雅楽会	雅楽の保存と継承
松本歌舞伎舞台保存会	歌舞伎舞台の保存と継承、イベントの開催
内町、新町、田町、道祖土、城内自治会	祇園祭（御神酒頂戴式）の保存と継承、彫刻屋台の保存と継承
上町、東町、仲町、下町、後町自治会	祇園祭での御神輿や茅の輪くぐりを復活し、歴史文化を活かした地域づくりに取り組む
上大羽自治会	御神輿の復活、納涼祭を復活し、歴史文化を活かした地域づくりに取り組む
大郷戸自治会	大郷戸廃寺跡五輪塔群の清掃
松本自治会	屋台、歌舞伎舞台の保存と継承
原自治会	彫刻屋台の保存と継承
下町、後町山車保存会	上棟柱立飾山車の保存と継承
亀岡八幡宮里山の会、氏子青年会	小宅古墳群の整備
お囃子保存会（町内 18 団体）	お囃子の保存と継承

写真 2-1　観光ボランティアガイドましこ

写真 2-2　綱神社太々神楽

写真 2-3　小宅古墳群の整備（菜種収穫）

２－５　歴史文化に関わる町民意識

町民の歴史文化に関する意識を「益子町歴史文化アンケート」として 3 回実施し、以下 95 名をアンケート対象者とした。

1 回目：平成 28 年（2016）2 月 6 日
日本民藝館学芸部長杉山氏の講演会「濱田庄司と民藝運動」参加者 30 人を対象に実施。

2 回目：平成 28 年（2016）3 月 25 日～ 4 月 17 日
文化財探検隊報告展示「あなたの地域にも文化財あり〼」観覧者 14 人を対象に実施。

3 回目：平成 28 年（2016）4 月 16 日
歴史講座特別編「小宅古墳群青空教室」参加者 51 人を対象に実施。

（1）アンケート内容

益子町歴史文化アンケート

◆基本情報
1．お住まいの地域の郵便番号
2．性別
3．年齢

◆益子焼に関するアンケート
4．あなたの家では益子焼を使っていますか？　（　はい　・　いいえ　・　わからない　）
5．いままであなたは「益子焼はどんな焼き物ですか？」と聞かれたら何と答えていましたか？

◆益子町の歴史や文化財に関するアンケート
6．あなたが益子町の文化財ときいて思い浮かべるものはどのようなものですか？
該当するものに「○」を、その中で実物を見たことがあるものに「◎」をつけてください。

西明寺（三重塔・楼門）	妙伝寺（山門）	安善寺（シダレ桜）
西明寺（本堂内厨子）	入定塚古墳	彫刻屋台（内町・新町・田町）
西明寺（笑い閻魔）	風戸塚古墳	彫刻屋台（松本・原）
地蔵院（本堂）	天王塚古墳	上棟柱立飾山車（下町後町）
地蔵院（阿弥陀三尊像）	小宅古墳群	岩下製陶（太平窯）登り窯
綱神社・大倉神社	御城山遺跡	芦沼獅子舞
円通寺（表門）	高館城跡	八坂神社御神酒頂戴式
円通寺（一切経塔）	宇都宮家の墓所	山本太々神楽
日下田藍染工房	藤根善治の墓	長堤太々神楽
益子参考館（上台）	長谷寺羽石家五輪塔	綱神社太々神楽
益子参考館（登り窯）	大郷戸廃寺跡五輪塔群	妙伝寺の雅楽
鶏足寺（山門）	光明寺（薬師堂）	松本歌舞伎舞台襖絵
日枝神社（本殿）	光明寺（シダレ桜）	旧小宅小学校の赤松
長堤八幡宮（本殿）	光明寺（枝垂えごのき）	その他

7．あなたは益子町のどんな風景が好きですか？

8．今後、歴史文化に関わるどのようなテーマの講演をきいてみたいですか？
該当するものに「○」をつけてください。（複数回答可）

益子の古代史	（古墳や遺跡の出土品に関することなど）
益子の中世史	（宇都宮氏や益子氏、西明寺や地蔵院、戦国時代の城跡など）
益子の近世史	（江戸時代の生活や手仕事、円通寺、黒羽藩など）
益子の近現代史	（明治～昭和の生活や手仕事、田野村・益子町・七井村など）
益子の窯業史	（古窯群、幕末から濱田庄司以前、民藝運動、濱田庄司・島岡達三など）
芳賀郡内の歴史	（　　）
栃木県の歴史	（　　）
民俗	（地域の歴史や年中行事、お祭り、古道・街道など）、 その他

◆その他のアンケート
9．あなたが益子町で自慢できるものはなんですか？（歴史文化関連以外でも結構です）

質問は以上です。アンケートは歴史文化基本構想策定の参考にさせていただきます。
ありがとうございました。

（2）アンケート結果

【基本情報】

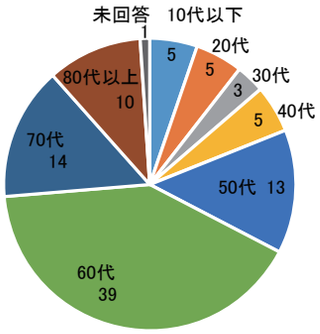

図 2-12　年齢の分布

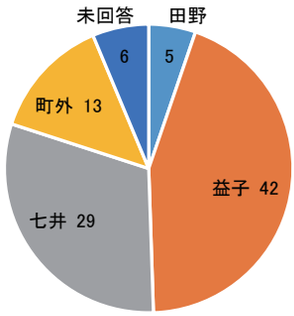

図 2-13　居住地域の分布

【益子焼に関するアンケート】

・あなたの家では益子焼を使っているか　　はい 79（83%）　いいえ 2（2%）　未回答 14（15%）

・益子焼を説明するときどのように答えているか

≪見た目・質感・概要≫
・素朴、質素〔8〕
・重い、厚い、がっちり〔10〕
・色は茶、黒系、半ツヤ〔4〕
・もようもきれいでつかいやすい
・きめの粗い土で作られた器
・あたたかみがある器〔4〕
・昔からある７つの釉薬を使い、益子の土を使って作られたやきもの〔4〕
・柿釉・黒釉など伝統釉を用いたものから現代まで
・江戸後期に黒羽藩の奨励によって始まった焼き物。
　現代の益子焼は濱田先生のおかげで「民藝」として育っている。
・益子及びその周辺で作られたもの
・今はいろいろな作風のものがある〔2〕

≪その他≫
・濱田庄司
・土のにおい
・益子で作られた焼き物〔3〕
・手作りのうつわ
・梅干入れの水がめから民芸品が出来た話をする

≪用途≫
・日用品〔4〕
・民芸品〔2〕
・カップ、ぐい飲、皿、絵皿、茶わん、茶器、かめ
・日用雑器→民芸陶器
・昔は日常使う焼き物であったが、今は芸術品のイメージがあり高い物

≪使い勝手・評価≫
・よい
・使えば使うほど味わい深いものがあります
・ましこらしいやきもの
・使うたびに味がでる
・温かい・使いやすい・親しみやすい〔3〕
・落としても割れにくい
・熱い物は熱く、冷たいものは冷たく飲める器はとてもよい。
・益子町で有名な焼き物で、外国の人からも人気がある素晴らしい伝統の焼き物です
・益子町で生産され世界的に有名な陶器
・何か歴史を感じるけど、ずっとかかわってきたものだから、重要さが分からなくなってきた
・最近は、色々なものがあって何が益子焼きかわからない
・派手ではないが、日常の使い回しには丈夫で最適
・美術工芸品として、とくに構えることのない姿勢の作陶がいい。
　これからは新しい時の流れに対応し、革新的な技法の生まれることに期待する。
・丈夫で長もち
・日用品から芸術品まで素晴らしいもの。使ってよし、飾ってより、贈ってよし
・日常使いの陶器。各地の材料が容易に手に入るようになり、以前よりはかなりあいまいになってきている
・昔は､柿･黒を使った素朴な物でしたが､今は作り手の自由な発想で使い手が楽しめる物を益子焼きといえる。
・ほとんどの食器が益子焼で、切り離すことのできない益子焼。
・様々な形態、模様があり、自分の好みに合わせて選べること

【益子町の歴史や文化財に関するアンケート】

・益子町の文化財ときいて思い浮かべるもの、実際に見たことがあるもの

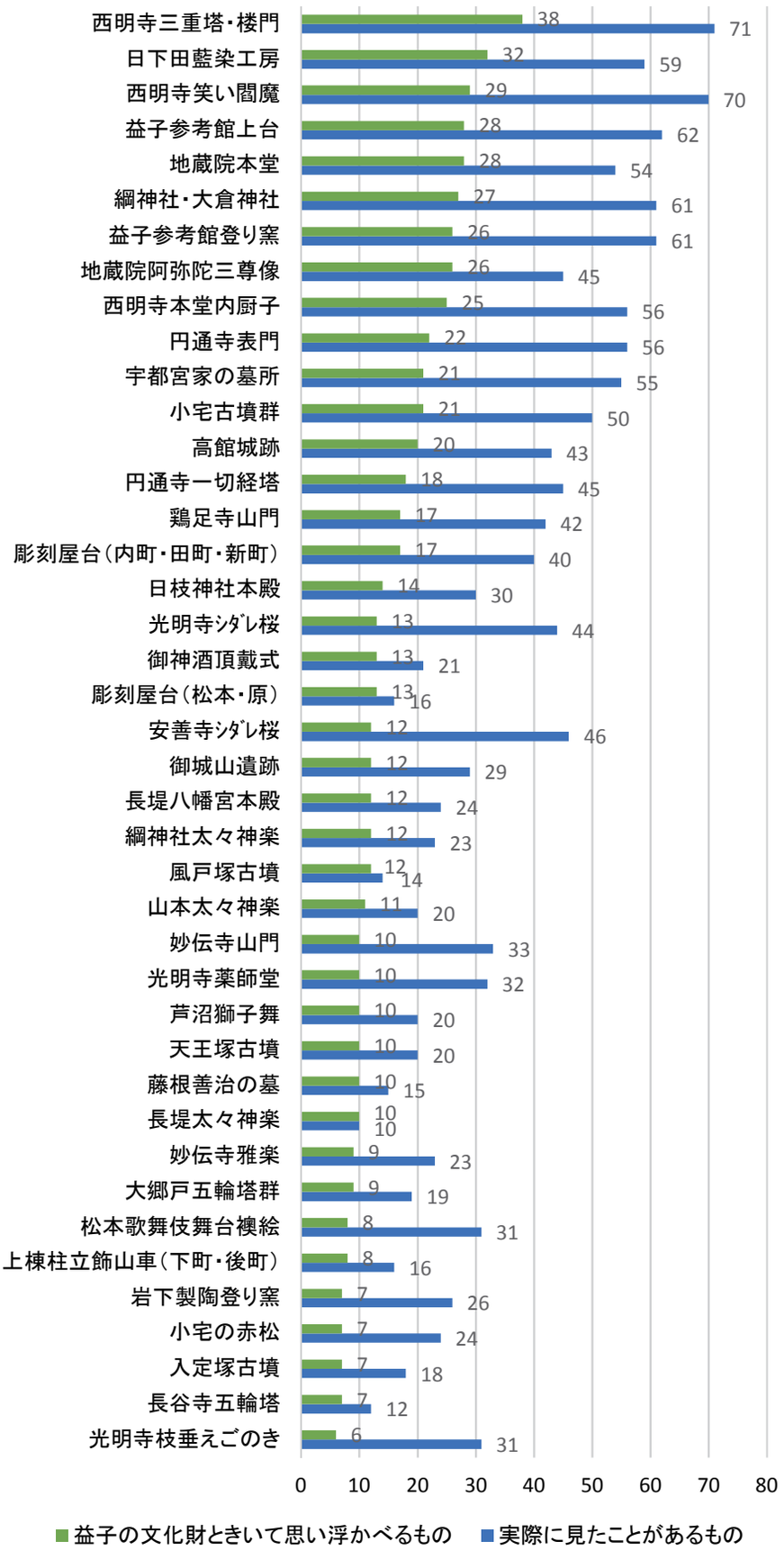

図 2-14　益子町の文化財ときいて思い浮かべるもの、実際に見たことがあるもの

・益子町の好きな風景

≪山・植物・自然≫
- 自然の多いところ〔4〕
- 小高い丘、山並み〔6〕
- 近くと遠くに見える山の風景
- 鶏足山塊（雨巻―足尾―焼森―鶏足山）、大平山（芳賀富士）、高館山等を含む〔8〕
- 大郷戸ダム付近の山々
- アプローズの前から見る益子の山々の風景
- メッセからの日光連山（御城山・益子小・西明寺から見る）〔2〕
- 益子から見た男体山
- 冬の生田目農道付近から見える富士山
- 山本から見た前沢町有林
- 雨巻山頂からの眺め〔2〕
- 山がきれいで木々、花が美しく咲いているところ
- 菜の花と桜の風景〔2〕
- 沢山のキレイな桜の木
- 山桜が見える山の風景
- 春の花が咲く風景
- 原風景、山春
- 緑が豊か〔2〕
- 雑木林〔3〕
- 益子の森
- 自然な森＆空
- 星空　広い空
- あまり整備しすぎない自然
- 関東平野
- 百目鬼川のかわうそ　さぎ　アマガエル

≪里山・田園風景・田舎≫
- 田園風景〔10〕
- 上大羽の田園風景
- 小貝川周辺の田園風景
- 里山（特に大羽の山々）〔8〕
- 里山の風景〔6〕
- 田舎の風景〔2〕
- 夕焼空と田園
- 麦畑の風景
- ふる里を感じる風景
- 里山、山あり、田あり、畑あり、バランスよくまとまっている
- 里山の原風景と市街地の陶器店
- 里山に囲まれた自然と歴史の調和のある風景

≪町並み≫
- 高い山等に登って見下ろした町の風景など
- 益子小から見る宇都宮方向の風景
- ワグナー・ナンドールさんへ行く道から御城山方面を見た風景
- 陶芸の家々、お店
- 城内坂

≪建造物・電車・登り窯≫
- 参考館上台
- 神社寺院その境内
- 登り窯の煙〔4〕
- 登り窯の炎
- 田園を走る SL
- 夕焼けをバックに走る電車

≪その他≫
- きれいな風景
- 全部
- 小中学生の登下校姿（アイサツをしてくれる）
- 歴史を感じさせる風景
- 澄んだ空気と静かな暮らし
- 放射能のない美しい風景
- 文化財が多い
- 町民の益子焼きに対する意識
- 町の人の人柄、懐かしさ、個人店が多い

・今後希望する歴史文化に関わる講演テーマ

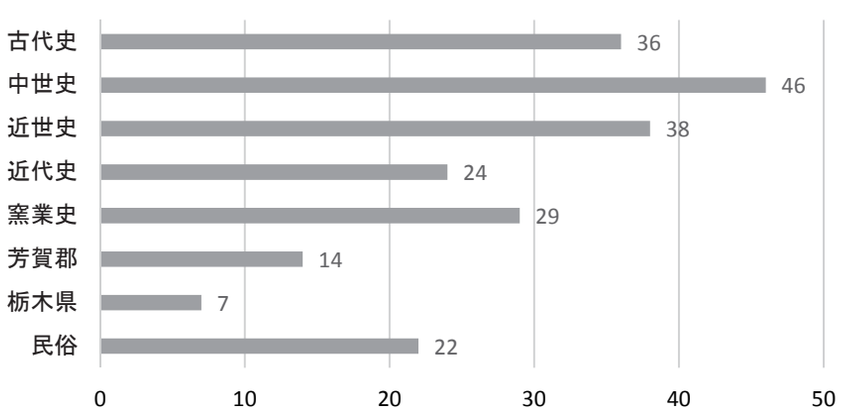

図 2-15　今後希望する歴史文化に関わる講演テーマ

【その他のアンケート】

・益子町で自慢できるもの

≪自然・風景≫
・里山の風景〔5〕
・自然がいい〔4〕
・風景、景観〔3〕
・四季のある自然
・キレイな山、桜、花
・生田目林道の山桜の植えてある付近
・大羽地区のやさしい里山景観
・益子の森
・人が多すぎず、空気がきれい
・百目鬼川源流のホタル
・自然災害が少ない

≪歴史文化≫
・歴史的なものがたくさんあること〔3〕
・歴史ある文化遺産等
（安善寺・地蔵院・円通寺・西明寺・各種神社等）
・歴史文化（特に大羽地区が好きです。）
・古代からの歴史
・中世の文化財〔6〕
・国指定や県指定の文化財
・西明寺城跡
・御城山跡
・益子の祇園祭
・日下田藍染め〔2〕
・亀岡八幡宮周辺の古墳群をめぐるところ
・大羽の文化財と地区の風景〔2〕

≪住民≫
・移住者に対し寛容であるところ〔2〕
・他者を受け入れる心の広さ。親切さ。
・益子の人はみんな良い方々たちです
・若い人が多くて自由なかんじ
・人情〔3〕
・益子の人々（開放的な外の人を受け入れる雰囲気）
・観光ボランティアに代表される様々な町民グループによる活性化活動があること
・益子焼きとそれにかかわった人々のこと
・豊かな自然とそこに生きる人々
・物づくりに大勢の人がかかわっている

≪産業・生活≫
・益子焼〔12〕
・いちご
・田舎すぎず、都会すぎず、住みやすいところ
・生活に困らない環境と豊かな自然の両立
・自然生活
・ポターリング益子などの楽しいイベント
・土祭、スポーツクラブなど
・カフェ〔2〕
・古民家
・若者にウケる陶芸の街としての雰囲気
（焼き物・カフェ等）

≪その他≫
・自由なフンイキ
・ゆったりとした時間
・セント・アイヴスとつながっている
・益子中学校
・城内坂

（３）アンケート結果から見る益子の歴史文化に関する町民意識

当アンケートでは、益子焼に関する認識と益子の歴史文化に対する意識、益子町の魅力について調査した。

①益子焼に関する認識

益子焼については未回答を除けばほとんどの人が使用している。また益子焼に関する認識では、日常的に使う焼き物という認識は共通しているが、伝統工芸品としての益子焼が製造技法および土と釉薬に決まりがあるのに対し、商標登録上の益子焼は益子町と接する市町（市貝町、真岡市、茂木町）で生産された陶磁器も含まれ、土や釉薬を指定するものではないため、伝統的な厚みがあり柿釉などを用いた器から現代作家の作品までさまざまな認識がされている。また、現状の課題なども含めて多くの人が益子焼について幅広い知識を持っていることがうかがえた。

②益子の歴史文化に対する意識

当アンケートは歴史講座等を利用して実施したものであるが、図 2-14 をみると、全体的に、益子の文化財と聞いて思い浮かぶ文化財は、もっとも多くの回答があった西明寺三重塔・楼門でも40%程度であり、町の文化財を文化財として意識している人は少ないといえる。一方で文化財の意識はなくても、西明寺三重塔・楼門で 70%を越えるなど、文化財の所在地を訪れたことのある人が多いという結果となったことは町民意識のひとつの特徴といえる。詳しく見ると、国指定文化財 7 件の他に、西明寺や上大羽の文化財、益子参考館（上台・登り窯)、日下田藍染工房を益子の文化財と連想する人が多く、これらは実際に訪れたことがある人も多い。文化財の種類別でみると、寺社などの建造物を文化財のイメージと捉える人が多く、実際に訪れている人も多い。松本歌舞伎舞台背景襖絵は、4 年に 1 度松本地区で公開されるため人目に触れる機会は少ないが、見たことのある人は比較的多い結果になった。地元の努力によってこのような結果になったと思われるが、他にも平成 24 年以降実施している「里山芸術祭」や「ましこ伝統芸能フェスティバル」で会場の町民会館にこの舞台を設置し多くの町民に見てもらったことが影響した可能性があり、これらのイベントが町内の文化財認知のきっかけになっているともいえる。小宅古墳群も地元の努力により近年桜や菜の花の名所といえるまでに整備されている。今後、文化財としての認知度と訪れる人の増加が期待される。

好きな風景については、大きく分けて山並みや植物などの自然、田園風景などの里山、山などから見下ろした景色や陶器店が並ぶ町並み､登り窯や伝統的な建造物などに関する回答を得られた(「・益子町の好きな風景」一覧参照)。山は高館山、雨巻山、芳賀富士などの町内にある山を望む風景が多く、日光連山を望む景色を挙げる人も見られた。田園風景などの里山と合わせると、多くの人が自然と共存した風景を好んでいることがわかる。また、陶器店が並ぶ城内坂や登り窯から立ち上る煙などの風景も多く挙げられ、陶芸の里らしい風景が好まれている。

今後歴史講座のテーマにしてほしい分野についての問いでは、中世史がもっとも多かったが、近世史や古代史などの要望も多く益子町の幅広い歴史を学ぶ機会が求められている（図 2-15 参照)。

③益子の魅力

益子町で自慢できるものについては、自然・風景、歴史文化、住民、産業・生活、その他に分けることができる（「・益子町で自慢できるもの」一覧参照)。歴史講座を利用したアンケートであったこともあり、歴史文化に関するものを挙げる人がもっとも多く、特定の文化財より上大羽などの地域や雰囲気など空間的な部分を自慢できると思っている人が目立った。自然や里山について挙げる人も多く、自然とともに生活するなど住みやすさを挙げる人もみられた。住民については、同じ町民を誇りに思う人も目立ち、移住者など他者を受け入れる寛容さが挙げられていることが注目される。産業については言わずもがな益子焼関連を挙げる人が多く、その他は、自由な雰囲気やゆったりとした時間といった目に見えない部分を自慢できるとした回答が挙げられた。